

評価（人権）の視点

※ AからDは、人権啓発事業に際して「必要である。」といわれている視点。 EからGは、人権の視点から対応する着眼点を設定。

評価の視点		着 眼 点（例示）
A	聴く 知る	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども，高齢者，障がい者など差別や人権侵害を受けている人，又は，受けやすい立場の人が何を必要としているのか。</li> <li>意見・提案に耳を傾けているか。</li> <li>アンケート等、参加者の満足度，理解度を把握しているか</li> </ul>
B	伝える	<ul style="list-style-type: none"> <li>適切な情報を正確にわかりやすい表現，方法でつたえる。工夫をしているか。</li> <li>わかりやすく、親しみやすいことばや表現となっているか。</li> <li>だれもが安易に受け取れる方法で情報を伝えているか。</li> </ul>
C	整える	<ul style="list-style-type: none"> <li>合理的な配慮を行い参加しやすい環境を整えているか。</li> <li>手話通訳、要約筆記や車イスのスペースを確保しているか。</li> <li>一時保育や授乳室を確保しているか。</li> </ul>
D	協働する	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域での主体的な教育，啓発活動を支援し協力関係を築いているか。</li> <li>地域の理解と協力を得られる事業展開となっているか。</li> </ul>
E	妥当か	<ul style="list-style-type: none"> <li>啓発課題や対象者は適切であるか。明確になっているか。</li> </ul>
F	有効か	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権意識を高める事業となっているか。</li> </ul>
G	効率的か	<ul style="list-style-type: none"> <li>他部署と連携，調整して実施しているか。</li> <li>人権に関わる機関と連携，協働して実施しているか。</li> </ul>

